

公益信託あだちまちづくりトラスト

第10回 助成活動団体 成果報告会報告書

開催日時：平成30年10月21日(日)

午後1時30分～4時30分

開催場所：東京電機大学

東京千住キャンパス1号館100周年ホール



あなたの

まちづくり

を

応援します!



Contents (目次)

P.3 トラスト助成活動団体成果報告発表
〈テーマ〉住みよいまちづくり

団体名	発表内容
東京未来大学小谷ゼミ	みらいキャリア設計講座
みらいママ	みらいママハッピールーム

P.5 〈テーマ〉安全・安心のまちづくり

団体名	発表内容
あだち防災プロジェクト	あなたと私のあだち防災プロジェクト

P.7 〈テーマ〉魅力あるまちづくり

団体名	発表内容
特定非営利活動法人エコロジー夢企画	花畑川を活かしたまちづくりの推進
千住コンテンツ文化研究会	コミックイラストで描く千住の四季

P.9 〈テーマ〉歴史・文化のまちづくり

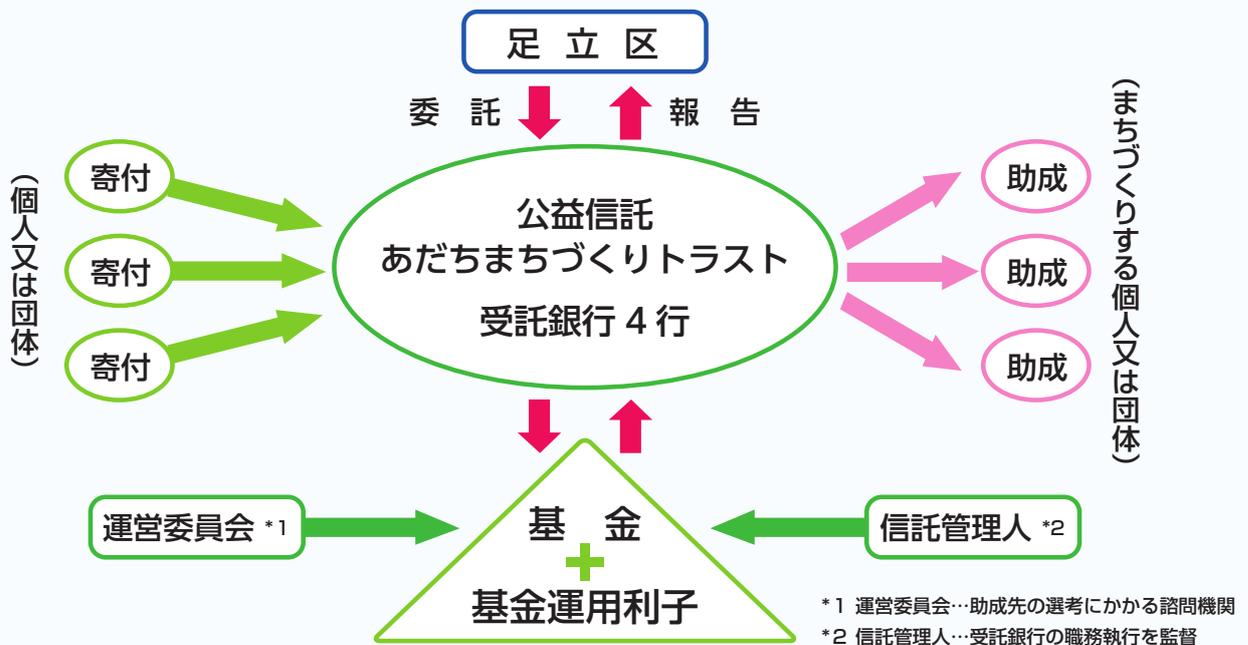
団体名	発表内容
NPO法人千住文化普及会	千住地域の魅力を伝えるガイドブック製作
柳原まちづくり研究会	柳原音楽祭まちづくり推進事業
あだち銭湯文化普及会	足立区の銭湯文化に関する調査・研究と普及啓発活動

P.11 ディスカッション
〈テーマ〉トラストがつくる あだちの魅力発信と連携について

P.13 全体講評
閉会挨拶

P.14 アンケート集計結果

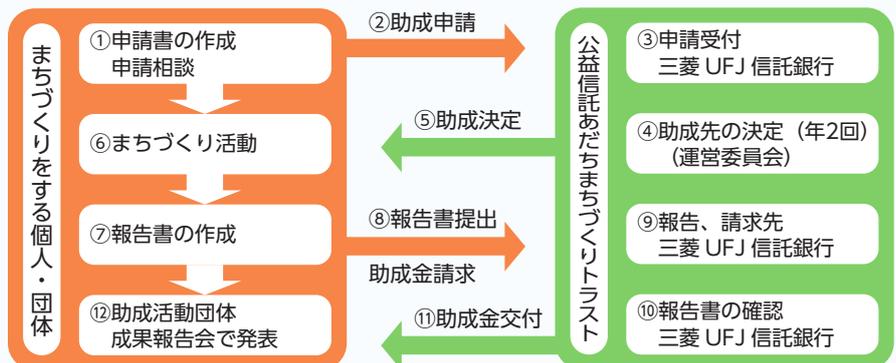
■公益信託あだちまちづくりトラストのしくみ



「あだちまちづくりトラスト」は、個人や団体等からの寄付金を公益信託法に基づき足立区が信託銀行に委託し、その運用益等でまちづくり活動に助成しています。
詳しくは、公式ホームページ <http://adachi-trust.jp/> をご覧ください。

■助成申請から助成金交付までの流れ

申請募集は、5月・12月の年2回行っています。
アイデアあふれる申請をお待ちしています！





開会挨拶

社会の変化に対応する
自主的なまちづくりに期待



トラスト運営委員会 委員長
大熊 喜昌 さん

あだちまちづくりトラスト助成活動団体系成果報告会は、今年10回目となりますが、年々その内容も充実し、今後も足立区の自主的なまちづくりが盛んになるよう期待しています。

振り返りますと、昭和63年に、まちづくりトラストが設立され、以降、年間平均で約3,000万円の助成を行い皆様の活動を支援してきました。今年、30年目を迎えました。社会状況の変化に対応する形でトラストも改革を重ねてきました。

変化に対応し進化するトラスト助成

アメリカ発の金融危機の影響で、世の中が経済的に厳しい時期もありました。平成24年には、トラストと同時に足立区のまちづくりを行ってきた、足立区まちづくり公社が解散するということもありました。社会状況が変化するなか、従来のトラストのあり方では、多岐にわたる申請の内容に対応することが難しくなり、平成27年より制度の改変を検討し、29年度より新しい制度が適用されることになりました。活動の内容は、少子高齢化の事案、あるいは地球温暖化など、状況に応じて変わっていくと思えます。今後の皆様の活動に期待しています。

足立区を代表して

行政としても参考にしていきたい、
豊かな発想のまちづくり活動



足立区 都市建設部長
大山 日出夫 さん

本日は、お忙しいなか、この報告会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。また、本日、発表していただく皆様は、日頃から、地域におきまして地道なまちづくり活動を行っていただいていると思います。心から感謝申し上げます。

まちづくりトラストは、先ほど大熊委員長からお話がありましたとおり、昭和63年から続いておりまして、時代や社会のニーズに合わせて制度の見直し、変更などを行いながら今日にいたります。

地域で活動されている皆様だからこそその発想

さて、本日、発表していただくテーマ、内容を拝見させていただきました。行政が、職員同士で色々と考えていても、おそらく、こういう発想は浮かんでこないだろうと驚くと同時に、日頃から地域で活動されている皆様だからこそその発想であり、活動だと感じました。本日のご報告を、行政としてもぜひとも参考にさせていただき今後につなげていきたいと思えます。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

東京未来大学小谷ゼミ

みらいキャリア設計講座

〈コース〉学生のまちづくり活動



発表者
平澤 優夏さん

子育て中の親子と学生の
新たなつながり

足立区在住の子育て中の親子に向けてイベントを行ってきた私たちは、今回、学生側にも乳幼児とのかかわりにより将来の子育てや結婚に対するイメージに有益なものが生まれると考え、トラスト助成を受けて「みらいキャリア設計講座」を実施することにしました。

現在の日本には、今後も年間出産数が減少していくと予測される少子化の問題があります。また、アンケートにより、子育てをしている母親には、周囲の目が厳しく、社会的に孤立しやすいたことがわかりました。これらの問題に対して私たちが導き出した結論は、「まち全体で子育てに対する理解を深め、お互いを思いやるようにしたい」ということでした。

双方に訪れた学びの機会

今回、足立区の大学生を対象に、区内の子育て中の親子と関わる企画、「みらいキャリア設計講座」を実施いたしました。普段関わることのない双方がつながることにより、学生は、結婚、出産、育児を考える機会となりました。また、子育て中の方は、お子さまへの愛着を再確認することができたようです。



みらいキャリア設計講座

講座では、助産師さんに、妊娠、出産についての講演を行っていただいた後、グループに分かれ、子育て中の方と学生との交流を行いました。赤ちゃんとの触れ合い体験では、人見知りや激しい泣き、泣かない子など、いろいろな子どもたちと触れ合い、学生たちにも新鮮な体験となりました。

赤ちゃんに触れ合う機会を設けた結果、学生と子育て中の方、双方が学べる機会となりました。また、よくしゃべるようになった子や、表情が豊かになった子もいて、子ども、子育て中の方、学生、三方良しの結果が生まれたと思います。今後は、これらに足立区全体で取り組む必要があると考えています。

みらいママ

みらいママハッピールーム

〈コース〉まちづくりはばたき支援



代表者
下坂 栄里子さん

目標は、足立区を
子育てしたいまちNO.1に

みらいママは、2017年4月に活動をスタートしました。主な活動は、子育て中の方が、必要な知識を習得できる場としての「みらいママ講座」などの実施です。知識を習得して子育てに余裕が生まれることでハッピーな育児が実現。ママがニコニコと育児をすると、子どもに伝わり、子どもが健全に育つ。健全な子どもが増えることにより住みよいまちになる。こうした循環を生み出し、足立区を子育てしたいまちNO.1に、することを目指しています。

2017年度は、全14回のみらいママ講座を実施、参加総数は、362名でした。みらいママハッピールームは、全21回の実施、参加総数137名、イベントは、2回行い250名の方にご参加いただきました。毎回、多くの方からご応募いただき、子育て中の方々の関心の高さを伺い知ることができました。

子育てしたいまちづくりを

みらいママ講座では、産婦人科医の宋美玄先生の講義のほか、東京未来大学小谷博子先生の講義も実現、毎回多くの方にご参加いただき満席となる講座も

ありました。各講座、真剣にメモをとる参加者も多く、質疑応答も活発に行われるなど、大変有意義な時間となりました。みらいママハッピールームは少人数制で交流を中心に、子育て中のママの居場所、情報交換の場として役立ちました。交流を通じて、子育てママ同士の仲も深まりました。

また、みらいママの趣旨にご賛同いただいた、オハヨー乳業様やタナカバナ様といった企業様からも協賛を得ることができました。

みらいママの初年度の活動を通じて、子育て中のママの関心の深さと、こうした場の必要性を実感することができました。今後も、みらいママは、子育て世代が安心して暮らせる足立区のまちづくりに貢献し活動を続けてまいります。

(当日発表者は中川千春さん)



みらいママハッピールーム

子育てがしたくなるまちづくりで、 家族みんなでの子育てを応援



コーディネーター
加藤 仁美 運営委員
東海大学 教授

育児は、家族みんなで

会場より ご報告には、ママという言葉が頻繁に出てきましたが、パパについてはどうでしょうか、お考えがあればお聞かせください。

東京未来大学 小谷ゼミ 私たちの活動では、男性の方にもたくさん参加していただいています。今後は、ママだけが育児ではなく、幼稚園のお迎えやイベントに参加する時も男性が増えていくよう、大学では取り組みをさせていただいています。

みらいママ 平日開催のイベントが多かったため、結果的に女性の参加者が多かったのですが、週末土日開催の講座も増えていきますので、ぜひ、ご夫婦で参加していただければと思います。子育ては、ママだけではなく、パパも含めて家族みんなでするものだという思いは、我々も持っておりますので、ぜひ、ご参加いただければと思います。

子育て支援活動の継続、今後の展開

吉満 明子 運営委員 東京未来大学小谷ゼミの皆様、

学生もお子さんを持ったママたちと関わることで意識が変わるのではという問題提示から、その成果が得られたということは、私も実感を持つてうかがうことができました。今回、トラストの趣旨は、地域のまちづくりなのですが、この一年を通して、学生の方々の実感、意識改革はわかりました。それに基づき、今度は地域にどのように還元し、また、どのようにに地域と関わっていくのかというところを教えてくださいいただけますか。また、ぜひ活動を継続していただきたいと思うのですが、来年以降、どう取り組んでいかれるのか、お考えがございましたらお聞かせください。

東京未来大学 小谷ゼミ 今回のトラスト助成を受

けるにあたり、申請から実際に活動するまで、そして今回のこの報告会と、年度をまたぎ、申請した生徒も後輩に託して卒業していく中、継続性に関しては厳しく、これで終了という形になると思います。ただ、地域の方には、現在も毎週大学に来ていただき授業の中で触れ合うようにしています。提案ですが、「学生のまちづくり活動コース」の助成回数を1回限りではなく、継続申請も可能にさせていただくと事業を継続できるかなと思います。

吉満 明子 運営委員 みらいママさんには、トラストを有効に活用していただけたなという印象です。



情報発信の仕方、講師の方、関わる人の数など、実践的に取り組んでいただけたいご報告を受けて嬉しく思います。今後も、まちに対して継続的に活動を続けていただきたいと思います。次年度以降の取り組みについてのお考え、また、トラストの助成が終了した後の資金の準備など、お考えがありましたらお聞かせください。

みらいママ 現在北千住駅エリアを中心に講座やイベントを開催していますが、将来的には、足立区全域に広げていきたいと思っています。そのためには、区内で活動している子育て団体と連携、協力し進めていくのもひとつの方法かなと思います。資金に関しては、みらいママの趣旨に賛同してくれる企業様との出会いがいくつかありましたが、今後も講座やイベントを開催し、そういう関係を増やしていければと思います。また、みらいママ自身が、よりよい内容を発信するとともに、継続して活動できる団体としての仕組みづくりも並行して考えていきたいと思っております。

あだち防災プロジェクト あなたと私の あだち防災プロジェクト

〈コース〉旧般助成コース



発表者
鈴木 圭子さん

防災を学び、 助け合える地域のつながりを

私たちは、足立区内で活動する8団体が、防災をキーワードに集まり、3年前にプロジェクトを立ち上げました。昨年度も多くの区民の方々を対象として、災害時を想定し、一人一人が助かるためのノウハウを学び、孤立しないで助け合える地域のつながり、ゆるやかなネットワークを作ることを目的に、講演会や体験学習を実施しました。

11月に体験学習として、災害時を想定し防災訓練を競技形式で行う、防災運動会を実施、総勢125名の大運動会になりました。5月には、主に親子を対象にした親子防災ワークショップを開催。6月には、仙台市で復旧復興に尽力している仙台建設業協会会長を講師に



あだち防災運動会

お招きし、防災講演会を開催しました。7月、高校生防災士を講師に迎え、中学生を対象に足立ジュニア防災士学習会を開催しました。8月には、体験型の防災訓練を行いました。以上、昨年度の活動には、のべ336名の参加がありました。

個人の防災力を高め、 災害に強いまちづくりを

私たちの活動によるまちづくりの効果は、個人の防災力を高め地域で力を合わせ、行政とともに地域防災を進めていくことで、災害に強いまちをつくることです。

3年間トラストの助成金をいただき、防災の講演や体験学習を開催してきました。体験学習の参加者は、乳児から80歳台の方まで、また、障がい者の方の参加もありました。まさに、地域社会がそのまま目の前に現れたような状況です。その方たちと一緒に防災を考え活動できました。講演会では、保育園や小中学校、都立高校、地域学習センター、住区センター、高齢者施設、福祉施設、区議会議員の方々と防災について学び、ディスカッションをすることができました。これらの経験を生かし、今後も防災につながるまちづくりをしたいと思えます。

会場の様子



防災をキーワードに広がる 人のつながり、まちづくり

地域コミュニティでの防災活動

加藤 仁美 運営委員 あだち

防災プロジェクトは、トラスト最終年ですが、人のつながりがどんどん広がっていることに驚かされます。

中林 一樹 運営委員 従来、

地域で行ってきた防災活動と違う視点、あるいは参加

者に多くの高校生、中学生が参加、これまでとは違う防災活動とまちづくりを実践されているなど感心しながら伺いました。足立区内の8団体が、防災をキーワードにプロジェクトを立ち上げられたということです。それぞれの団体、活動は区内に点在しているのですか。

あだち防災プロジェクト 足立区の中かで半分くらいの地域が、プロジェクトに関わっているというふうな状況です。

中林 一樹 運営委員 区と連携して、これまで3年間、活動を続けてこられました。足立区で半分の地域にかかわる8団体というのは、おそらく実際に災害が起きた場合、お互いに連携はしていくと思いますが、すぐにどこかに駆けつけるというふうなことは、広い足立区ではできないと思います。そういう意味で、もう少し狭い地域、すぐ駆けつけることができる自治会、町会というような地域コミュニ



ティの防災ネットワークに、これまで各団体が、展開してきた防災の働き手をどう近づけていくのかということが、大きな課題になるのではないかと思います。そうした点について、なにかお考えがあれば、お伺いしたいと思います。

あだち防災プロジェクト それぞれ8団体が点においておりますが、これまでの活動、体験を通して、自分たちの地域で災害が起きた時には、リーダーとなり進めていくという自覚を持つ人を増やしてきました。中学生も高校生も、何かあった時には、その地域で働いてもらう、災害があった時には協力してもらうということイベントをしてきましたので、今後は、地域に根ざした活動になっていくと思います。

中林 一樹 運営委員 そうすると、高校生や中学生の参加者の皆さんも従来の地域の自助防災組織や、地域の皆さんの防災活動との関わりがあったのでしょうか。

あだち防災プロジェクト 高校生防災士の方たちは、町会の防災訓練に参加しています。

防災は継続しなければ意味がない

中林 一樹 運営委員 実は、自治会に参加する人が減り、防災に携わる人も減っています。役員も高齢になり身動きが取れないというようなお話が、各地で聞かれます。そういう方々に、今、若い人たちは、防災に関して、こういうことをしていると伝えていただいたり、一緒に話をする場を提供していただけないかなと思われました。今後、ぜひ、そう

いう方向も含めて継続していただければと思います。

それから、もう1点、最近、震災関連死が大きな課題となっています。関連死される方の8割から9割は高齢者です。避難先で関連死される方もいますが、在宅避難の方の関連死も増えています。そういう方々を、さまざまなネットワークで支援していくということも、これからの大きな課題と思います。これからは、避難所に来た人たちだけのためではなく、避難所に来た人100人、さまざまな理由で避難所に来られない地域の200人、合わせて300人の人たちをどのように災害を乗り越えていけるよう運営するか、地域の運営拠点である避難所の役割



が問われると思います。ここでは、町会だけではなく、あだち防災プロジェクトでつながった8団体のような、さまざまな団体が地域の中で活躍することが非常に大事になってくると思われま

あだち防災プロジェクト 防災は続けていかないと意味がないと思います。今年4月に活動の拠点となる建物が足立区内にできました。トラストは、3年で終了しましたが、ただイベントをしたということではなく、常に災害を意識する人を増やしていくこと、その拠点では、防災に関することをずっと続けていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

特定非営利活動法人エコーロジー夢企画 花畑川を活かした まちづくりの推進

〈コース〉まちづくりはばたき支援



発表者
三井 元子さん

花畑川を活用する 地域コミュニティの形成

私たちは、花畑川のほとりにある足立区立第十三中学校の生徒と一緒に花畑川を活かしたまちづくりを考えながら活動しています。河川とその環境への関心を高め、日常的に花畑川を活用するコミュニティを形成し、次世代を担う地域づくり、川づくりの人材の発掘・育成、河川管理者と連携をはかり防災の視点も考慮した川づくりへとつなげていくことを目的としています。

第1回の活動は、中学2年生を対象として、花畑川の総合学習として川の歴史を学び、水質の調査を実施したほか、Eボート体験を行いました。第2回は、地域の方たちに対する公開授業を行いました。講師に首都圏低平地災害防災



花畑川の総合学習とEボート体験

検討会座長をしている土屋信行さんを迎え、水害や災害対策についてのお話をいただきました。この時は、中学生のボランティアが10名参加し、地域の方たちと触れ合いました。第3回は、Eボートで綾瀬川に行くことを企画しましたが、雨で中止となりました。

中学生が思い描く花畑川の未来

今年1月には、花畑川の将来像を考えたようにいうことで、多自然川づくりとかわまちづくりの話をし、ワークショップを行いました。中学2年生195人に地域の方24人が加わり15のグループに分けて、花畑川をどのようにしたいかを話し合いました。水をきれいにする大型濾過器、ごみを無くすロボット、堤防を土や木・植物に、エスカレーターつきの橋、船着場を作るなどの意見ができました。それらの意見をもとに、足立区立第十三中学校2年生の生徒さんがイラストを描いてくれました。本日お配りした下敷きのイラストです。

今後中学生と地域の日常的な連携やコミュニティづくり、まちの活性化として川への関心を高めることによって、よりよい川づくり、地域の絆づくりを進めたいと考えています。

千住コンテンツ文化研究会 コミックイラストで描く 千住の四季

〈コース〉まちづくりはばたき支援



発表者
中川 譲さん

キャラクターとの融合で、 千住の街を描く

マンガやアニメのリアルではないキャラクターが、リアルなまちの中にいるという組み合わせでマンガやアニメ、ゲームを制作するのが、ここ10年ほどトレンドになっています。『この世界の片隅に』では広島が、ご存知『君の名は。』ではリアルな新宿が描かれていました。リアルなまちなかとデフォルメされたキャラクターを組み合わせて描くことに対し、技術的にはどうなのか、描く側として、どんな技術技法で描くのかということを知りたいから、千住というまちをみんなで描いて盛り上げていこうというのが、私たちの活動の趣旨です。

新たな技法を千住を起点に学ぶ

昨年度は、プロのイラストレーターや写真家の方をお招きしワークショップを開催しました。

ここで、私たちの絵をどのように描いているかを説明します。まず、ラフな線を描いて、次にまちの写真と合わせていきます。線をきれいにして色をのせ、もう一度写真と合わせ、最後に仕上げとして光を入れていきます。このような工程を、具体的に説明するワークショップに参加者

をお招きし、千住のまちを描いていくというプロジェクトです。参加される方の最低条件として、絵を描くというのがありますが、参加者が、上手な人の技術を取り込んで、一緒に千住を描いていくと考えていただければよいと思います。

今年の2月には、ワークショップに参加した皆さんと一緒に作品展も行いました。

基本的には、絵を描く人たちの助けになればと思っています。まちを描く、自分のまちを描く方法、アニメのように動かす方法みたいなものを学んでいける場として、千住が起点になればいいよねと、そんなことを考えながら、これからも続けていこうと思っています。



キャラクターで描く千住 イラスト展

新たなアプローチで、地域の魅力を発信

川の魅力を掘り起こし共生の未来へ

大竹 さよこ 運営委員 足立区は、川に囲まれた区

です。エコロジー夢企画さんの、川を活かした、川と共生するという考え方は、私も足立区民にとって、非常に大切な視点であり考え方であるなど感じました。また、花畑川沿いにある中学校に着目した点、Eポートを活用した体験、机で学ぶことも大切ですが、このように川に入り、体験をし、感じてもらうという内容は、非常に新しいものであり、子どもたちにとって有意義な時間だったのではないかなと思っております。花畑川の将来像を考えるワークショップ、これも非常に良いアイデアだと思います。そして、この中学生が描いた花畑川の将来のイラスト、こういった目に見える形にすることが、この事業のひとつの意味にもつながると思えました。将来像のなかに、ゴミを無くしたい、環境を良くしたいという意見がありました。このイラストを見た地域の方のなかには、行動を起こす人が出てくると思います。今後も、このように地域の人の行動を喚起するようなものを作っていたら良いのかなと思えますが、その点いかがでしょうか。

エコロジー夢企画 資料に、「花畑川を活かしたまちづくりの推進2018」というのがありますが、今年度は、花畑川の歴史を学ぼう、水害を学ぼうという活動をしています。その他、Eポート体験、魚の調査もしました。花畑川の将来像を考えようというワークショップは、実際に川まちづくりをして

いる地域の方をお呼びして、お話しいただく予定です。事例についてお話を聞きながら、自分たちには、何ができるのかを考えるワークショップを開催します。

千住の魅力を静かに伝える

大竹 さよこ 運営委員 アニメーションというのは、



世界が注目する日本の文化だと思います。来年のラグビーワールドカップ、その先の東京2020と、東京に世界から注目が集まるなか、スポーツだけではなく、文化の祭典として、アニメーションの文化もさらに発展させていきたいと思っています。事業概要には、コミックイラストの手法をもちいて千住の魅力を発信するとあります。発表を聞かせていただいて、千住の魅力を発信するという部分が、少し伝わりづらかったのではないかと感じました。今回の事業を通して、千住の魅力をどう発信できたのか、千住の新たな魅力を発信できたのか、そのあたりをお聞かせ願いたいと思います。

千住コンテンツ文化研究会 千住の魅力の発信ですが、基本的には、千住を声高にアピールするとしていきます。これが有効であることは、確認しております。ワークショップの告知をツイッターで流

しますと、数万人の方が見てくれます。実際参加する人は、条件もあり、20〜30人となりますが、多くの方が知ってくれています。それが、千住に関してのリアクションにつながるのを確認していて、そのような形で千住に関する認識が広がっています。千住の魅力を声高に言うより、一歩引いた形でアピールしたほうが、まちの認知につながる、全体のイメージ向上として役に立つと考えています。



NPO法人千住文化普及会 千住地域の魅力を伝える ガイドブック製作

〈コース〉まちづくりはばたき支援



発表者
岡野 進さん

千住のまちの魅力を、ガイド本にして発信！

昨年間の助成を受けて、この度、『千住宿歴史ウォークガイドブック』という本を完成させました。本日は、この本についてお話しいたします。

平成18年に設立した千住文化普及会は、郷土の歴史文化を伝えていくことをテーマとして活動しています。活動の内容は、テーマに沿った講座の開催、千住の文化を知りたい方を対象に勉強会などを行っています。また、宿場町通り沿いの「お休み処『千住街の駅』」の運営を足立区からの委託を受けて行っています。

まちづくりには、いろいろな切り口があるかと思いますが、歴史や文化の背景を知る、過去に遡ることから始める形もあると思います。今回、本を発行した目的は、千住の魅力を多くの人に伝えたいということです。まずは、千住に住んでいる方々に地域の事を知ってほしいと思いました。私たちは、まち歩きの活動も行っています。参加者の半数は千住の方です。話を聞いてみると、「千住に長く住んでいるけれど、参加してみても千住の見方が変わりました」「こんなことがある

初めて知る自分のまちの魅力

なんて初めて知りましした」とおっしゃる方がたくさんいました。

また、足立区以外の方に千住に来ていただくためのきっかけをつくる目的もあります。冊子では、江戸幕府が最初に宿場として整備した千住一〜五丁目にある名所、史跡などの歴史的背景を紹介しています。

まちづくりの効果について、外部から訪れる方についての状況はわかりませんが、千住に住んでいる方に予想以上に購入していただいている印象があります。千住の方が、千住を案内する際に利用したりと、地域への愛着を深める効果があったのではないかと、地域に誇りを感じていただけるきっかけになったのではないかと考えております。



千住宿歴史ウォークガイドブック

柳原まちづくり研究会 柳原音楽祭まちづくり 推進事業

〈コース〉まちづくりイベント・整備活動



発表者
小倉 敏政さん

25周年を迎えた 柳原音楽祭というわがまちの文化

私たちの事業の成果物は、オーケストラの「オーちゃん」という人形と昨年度25周年を迎えた柳原音楽祭のふたつです。音楽祭には、25年の歴史があります。最初の1回を開催した後、また聴きたいという声がたくさんあり、25年間続くことになりました。

「オーちゃん」人形をなぜ作ったのかというと、柳原音楽祭は年に1度しかありません。そこで、まちに「オーちゃん」を置いておくと、人形を見た時に柳原音楽祭を連想し、柳原音楽祭を忘れないでいてもらえ、そこで感動したことを思い出したりしていただけるのではないかと考えたからです。

音楽祭の会場は中学校ですが、そこに「オーちゃん」と柳原のもうひとつのキャラクター「キデンくん」の看板があります。「オーちゃん」人形は、すごく人気があり音も出ます。今日は、電源などの関係でお聴かせできないのですが、『新世界』の第2楽章が15秒間流れるようになっています。

『新世界』から始まったまちの音楽祭

『新世界』は、チェコに生まれたドヴォルジャークという大作曲家の曲です。私は、その曲をよく聴いていて、日本には、良い曲があるなあと思っていたら、ドヴォルジャークという人が作曲したものだとなりました。そして、この曲を柳原で、オーケストラの演奏で聴いてみたいと思いい、みんなに相談したことから柳原音楽祭が始まりました。それが、まちの人にも受け入れられて25年も続く音楽祭になりました。

先ほども話しましたが、柳原音楽祭は、1年に1度です。それをつなげていくために、なにか像があったほうがいいのかなと考えたことから「オーちゃん」人形が生まれました。柳原は、現在、人口が少なくなっているのですが、まちを活性化する一助にもなればと思っています。



「オーちゃん」と保育園でのワークショップの様子



THE あだち銭湯展

あだち銭湯文化普及会 足立区の銭湯文化に関する 調査・研究と普及啓発活動

〈コース〉 旧般助成コース



発表者
荒木 久美子さん

さまざまな手法で 銭湯の魅力を発信

現在、足立区の銭湯は32件、全盛期の2割程度となっています。私たちは、この特有の銭湯文化を残したいという思いで活動してまいりました。活動は、大きくわけて3つ、銭湯の調査及び研究、普及啓発活動、そして、事業者人材育成です。

ひとつめ、銭湯調査を行った結果をまとめた冊子を製作しました。この本は、足立区の全銭湯の聞き取り調査を行った結果をまとめたものです。銭湯の成り立ちから現在までの歴史や店主の想いなどを、細かく紹介しております。

続きまして、普及啓発活動についてのご報告です。恒例となりました、あだち銭湯まち歩きツアーの開催、そして、銭

湯文化を保存継承し魅力を内外に伝えていくためにあだち銭湯川柳、写真、絵画コンテストを実施いたしました。

また、足立区や企業、商店街と連携し、8月の全日程を「あだち銭湯月間」と称し、さまざまな企画を行うあだち銭湯まつりを実施、同時期には、区役所のアトリウムで銭湯展を開催しました。

広がる普及活動のつながり

今回の活動においても、地域の方々との出会いがありました。千寿常東小学校の皆さんには、総合的な学習の時間に銭湯をテーマに取り上げていただき、地域と銭湯が抱える問題を明確にして、その解決策を話し合うという授業に参加させていただきました。このように、まちづくりトラストの事業を通して、私たち普及活動を行うことができました。

今後の活動といたしまして、3年間のトラスト事業は終了いたしますが、銭湯の良さを皆さまに伝えるまち歩きツアーを行い、8月の銭湯月間を足立区の魅力として定着させていく活動を引き続き行っていきたいと思っております。

豊かなまちづくりへ、新たな連携の可能性

区内外への積極的な情報発信

長澤こうすけ 運営委員

千住文化普及会の皆さん、千住の魅力をもっと外に発信していく必要があるということでしたが、せっかくガイドブックを作られたので、例えば、千住と似たまちに置いてみるとか、不動産企業と連携したり、さらに広げられると思うのですが、いかがでしょうか。

千住文化普及会

千住地区では、人が集まる所、待ち合わせ場所などに置きPRさせていただいています。まずは千住から発信して、その後は、観光交流協会などと連携して広くPRするなど、まだまだやれることはたくさんあると思います。

長澤こうすけ 運営委員

柳原音楽祭 25周年、本当に歴史のあるイベントです。足立区は今、文化、読書、スポーツの総合推進会議を立ち上げ、文化に対して力を入れていこうとしています。ぜひこの音楽祭を継続していただき、柳原は音楽のまちという形で認知を広めていただければと思います。千住だけではなく、区内にもっと広く発信してはどうですか。

柳原まちづくり研究会

メンバーの高齢化の問題や行政との関わり方も複雑で、どう発信していけば良いのかわかりません。そういったところを今後ご相談させていただきたいと思っています。

長澤こうすけ 運営委員

あだち銭湯文化普及会が活動をしているのを、さまざまな場所で見ました。これからも銭湯を中心としたまちづくりを頑張っていたいだきたいと思っています。トラストの活動は今回で終了ですが、今後は、トラストで集まった皆さんとの連携がいろいろとあっても良いと思うのですが、いかがですか。

あだち銭湯文化普及会

実は、私たちも常々考えております。実際に連携しているところもありますが、新しい関わりも求めています。そこで、トラストの交流会などを開催していただければ、そこで繋がれるのではないかなと思います。親睦会、事業の交流を含めて、良い方向に向かっていくのではと考えております。ぜひお願いいたします。



〈テーマ〉トラストがつくるあだちの魅力発信と連携について

届く、伝わる情報の発信

東京未来大学 小谷ゼミ 学生目線で、いろんな事業

を見させていただいて、一番わかりやすいと思ったのは、千住コンテンツ文化研究会のキャラクターのイラストでした。理解するのが難しいと思う方もいらっしゃると思いますが、若者が足立区にかかわる切り口としては、すごく良いと感じました。東京オリンピックの際も、外国人の方は、日本のアニメ文化に興味があると思うので、そういう面でも、良いコンテンツだと思いました。

次に、あだち銭湯文化普及会さん、大学には、あまり、まちの情報が無くて、こんなイベントが行われていたのかと思うことがたくさんありました。学生には空き時間があるので、情報があれば、そういう時に銭湯に行ってみようという気持ちにもなるのかなと思います。若い人は、温泉系が好きですし、銭湯がどういうところか気になる人も多いと思うので、大学生にも情報を届けていただけたら嬉しいなと思います。

あだち銭湯文化普及会

毎月、大学にも冊子を届けているのですが、埋もれてしまっているのかもしれない。目立つ工夫を考えたいと思います。



加藤 仁美 運営委員 千住コンテンツ文化研究会の方

と先ほどお話をしたのですが、私は、ツイッターをやりませんし、アニメも不得意です。しかし、千住のまち並みのなかにキャラクターがいると、関心を持つ人も多いと思います。そこで足立区をフィールドに、ストーリーを描いてアニメを作りたいとか、最終的な目標は何かお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

千住コンテンツ文化研究会 作品を作る機会を持つ

ことが今年度の目標です。

個人的には、銭湯を描くこともしてみたいと思います。銭湯マンガというのもおもしろいと思います。近くに大黒湯さんがあるのですが、実は関わり方がよくわからないというのが本音です。先ほど、銭湯文化普及会の山田様からご提案のありました懇親会の機会などがあると良いなと思いました。

あだち銭湯文化普及会 学生さんがおっしゃったよう

に情報が無いとお互いが思っています。銭湯は今、まちづくりに関わると同時に、コミュニティの場、情報収集の場ということで情報発信をしています。しかし、特に若い人たちに伝わっていないということで、大学とのつながりなど、後ほど、ご相談させていただければと思います。

エコロジー夢企画 私たちの花畑川でのEポート大

会ですが、安全面に関して心配があります。そういう時に、高校や大学の、例えば水泳部の人たちが手伝ってくれないかなと思うことがあります。しかし、どう連携す

ればよいのかわかりません。学校との連携、ぜひ、お願いいたします。

加藤 仁美 運営委員 例えば、ライフセーバーの資格

などを持っている方がいると安心感がありますね。

エコロジー夢企画さんの

活動、すごく感心があり

ます。とても時間がかかる

と思いますが、河川とか、

道路など、今まで使われて

いなかった場所を自分たちの空間にしていくことは、各地で注目されています。先ほどのカフェのように、長く

活動を続けていくと、そのようなことも可能になるの

では、と思っております。

エコロジー夢企画 先ほど、ゴミ拾いのお話がありま

したが、次は自分たちで企画して川の中のゴミ拾いをし

てみたらどうかと考えています。

加藤 仁美 運営委員 あるニュータウンの話ですが、川

がすごく汚れていました。その川を、ニュータウンの住民

の方が清掃して、すごく良い公園が作られました。時間

がかかるかもしれませんが、頑張っていたら良かったと思

います。

東京未来大学 小谷博子先生 私は、前任が東京電機

大学で、今、東京未来大学にいます。今回、東京電機大

学の学生さんに私たちの活動に参加していただけたの

は、電機大に私の知っている先生がいたからです。大学

間の交流もなく、東京未来大学は、中学校の跡地にあ



り、周辺にはコンビニさえありません。さまざまな状況で教員側もどのように学生を外に出したらいいのか頭を悩ませています。足立区に住んでいる学生も少なく、地域のことを知らない学生も多くいます。大学ごとのカラーも違いますし、大学間で連携を図ることも難しい状況です。そこで、お知恵をいただければと思います。区役所で、窓口をたてていただくとか、いかがでしょうか。

千住文化普及会 私どもでは、帝京科学大学さんのゼミの学生が千住のまち歩きなどに、定期的に参加しています。もし、お考えがありましたら、お声かけいただければと思います。

加藤仁美 運営委員 先生のお悩み、よくわかります。学生さんが外に出ていかないといいことですね。

東京未来大学 小谷ゼミ 以前、足立区には何も無いという印象がありました。そして、遠くから見ていると、怖いまち、そういう情報しかありませんでした。しかし、昨年、この報告会に参加して、いろいろな取り組みをし、まちのことを明るくしようとしている人がたくさんいることに気付きました。東京未来大学は周囲に何もないので、北千住には、こんなところがあるよと教えていただけたら、学生たちも率先して外に出て行くと思います。

足立区の魅力、千住の魅力について

柳原まちづくり研究会 千住の端に柳原というまちがあり、そこに住んでいます。まちの中に行くと、実はその魅力がわかりません。他の地域と比べて、良いところ

を教えてくださいたいと思います。

千住コンテンツ文化研究会 非常に長い歴史があるところが、千住の1番の魅力だと私は思っています。柳原などは、昔の地図を見ても600年ぐらい道路が変わっていません。昔と比べても変わっていないので、簡単にたどれるところが魅力だと思います。

千住文化普及会 千住は、新しいものと古いものが混在しているところが魅力だと思います。

空襲で半分は焼けてしまったのですが、千住には、土地の形がしっかりと残っています。

先ほど学生さんが怖いまちだと思っていたとおっしゃっていましたが、千住の魅力、実際に来てみたら、全く印象が違うと思います。

東京未来大学 小谷ゼミ そうですね。違いました。

勝田実 運営委員 足立区の千住に、これだけ大学が来て学生が増えたということは、画期的なターニングポイントです。若い人たちの意見は、これから私たちも活用したいと思います。様々な分野で学生さんとは連携をしていきたいと思っています。

本日、この報告会を通じて、互いの活動を認知したことで、こんな連携もあるのではという場が生まれたと思います。今後、こういった方々が集まれるきっかけ作り、区の言葉でいうと「協創」という形で、さまざまに支援していきたいと考えております。

また、治安が悪いというお話がありました。実際に住んでみると決してそんなことはないのですが、やはりイメージが先行している点、区としては、積極的に情報を公開して悪いイメージを払拭したいと常々思っています。

足立区の魅力に関しても、聞き取りのワークショップをいろいろと行っています。そこで得た情報を足立区の魅力として、積極的に発信していこうと思っっています。足立区として、いろいろな取り組みをしていますし、今後も、大学連携やシテイプロモーションを積極的にやっていききたいと思っています。

文化は作られるもの

柳原まちづくり研究会 先ほど長澤委員が、柳原音楽祭は文化だ、と文化の普及についてのお話をされましたが、これはどういうことですか。

長澤こうすけ 運営委員 例えばこのまちはこれだというように、シンボリックなものがあります。入谷とか浅草だったら、三社祭とか。そこで、「柳原は音楽の街だよね」ということが認知されれば、もつと音楽が好きの人が集まると思います。そして、音楽でコミュニティが形成され強くなつていきます。そういった意味で、もつと外に対して、柳原は音楽のまちとアピールしていくということ。そうすると上京する時に柳原というまちに住んで音楽大学に通いたいとか、次の形が出てくると思います。情報発信をどんどんさせていくと良いと思います。



団体間の新たなネットワークが 協創のまちづくりをより豊かに



中林 一樹 運営委員
明治大学特任教授

協創のまちづくりへの手応え

今年もデイスカッションで活発な意見交換が行われました。これだけ色々な活動があるなか、お互いの意見に対して話を通じている点、まさにこれが、足立区が掲げる「協創」と言えるのではないのでしょうか。1年でトラストの活動がここまで来たのだということを実感しています。

横のつながり。 ネットワーク作りの提案

「それぞれの団体が個別に活動しているだけではなく、お互いに交流する場が必要ではないか」という意見が出されました。特に、あだち銭湯文化普及会さんからは、懇親会、名刺交換会など具体的な提案もありました。それを聞いて私が感じたことは、この成果報告会が、単に成果を報告する会ではなく、成果を交流する会にしないといけないのではないかと。今後は、各団体の人が一堂に集まり、名刺を交換する、あるいは、より深く情報を交換するなりして、横のつながりを広げていけば良いのではないかと思います。

防災をキーワードにした連携の模索

本日は、あだち防災プロジェクトさんだけが防災関連団体でした。私は、防災が専門なのですが、実は銭湯というのは、災害の時にすごく役に立ってきたという実例があります。災害時、銭湯の方が「井戸の水が家にはあるので、どうぞこれを使って生活してください」と申し出るだけで、まち中が生き返ります。銭湯というのは、ある意味、まちの防災拠点だと思いますし、阪神大震災の時は、あるところで浴槽に貯めていた水で火を消しています。近所で起きた火災を、バケツリレーで火を消すこともできるので、ぜひ、あだち銭湯文化普及会さんとあだち防災プロジェクトさんには、つながっていただきたいと思います。

また、銭湯には広い脱衣所もありますので、子育てをしている方々も非常に使いやすいと思います。女湯側には、おそらく、赤ちゃんを寝かせる小さなベッドや、ケアをするための台などありますので、上手に使うワークショップもできると思います。みらいママさん、いかがでしょうか。

それから、エコロジー夢企画さんの花

畑川Eポートもありました。水害ハザードマップでいうと、足立区は水害に弱い地区です。水害の時に使えるポートとして、ただし、日常から使っていないと、いざという時には使えません。普段は環境を守るために利用するなどだと思います。あのEポートを、足立区で購入して学校などに置き、町会や民間の団体で利用するというところでつながっていければ、活動はさらに広がり、協創のあるまちになつていく、そのようなことを、皆さんのお話を伺いながら感じておりました。

次へつながる活動・成果を活かす会へ

次回以降、ただ単に報告するだけではなく、それを次につなげるためのネットワークを作り、お互いに協力し助け合う、そういうネットワークを広げていくことが大切だなと感じました。本日は、昨年にも増して、本当の意味での報告会というか、活動、成果を活かす会になったのではないのでしょうか。



閉会挨拶



小川 清美 信託管理人
税理士

本日は、本当に意義あるご報告をいただきありがとうございます。一点だけ、お話をさせていただきまます。あだち銭湯文化普及会さんが開催する銭湯展で、銭湯背景画の実演を拝見しました。見習いの大学生の女性が、画師のお手伝いをしていく様子を見て、これで、この技術伝統は受け継がれていくのだなと感じられて、あたたかく嬉しい気持ちになりました。私のような年配者になると、家のお風呂より、やはり銭湯のお風呂の方が、というのが実感です。未来に向けて、あだち銭湯文化普及会さんのご活躍を期待しています。

また、足立区役所シティブロモーション課職員による、『足立区のコト。』という本が出版されました。トラストと関わりがあった団体の活動が紹介されています。まちづくりに関する内容が多いので、一読されるのも良いと思います。

毎年の成果報告会においては、会場準備等を含め東京電機大学の皆さまにご協力いただいています。この場を借りて感謝申し上げます。

自主的なまちづくり活動を応援しています

平成29年度助成活動団体

NO	団体名	事業内容
〈コース〉学生のまちづくり活動		
1	東京未来大学小谷ゼミ	大学生と区内で子育て中の方、乳幼児がお互いに成長できるような活動を行う。みらいキャリア設計講座を開催する
〈コース〉身近なまちづくり活動		
2	子育てスタイル研究所	区内の駅・公共・商業施設などのベビーカー調査によりバリアフリー状況をまとめる。
3	竹の塚中学校活用推進委員会	地域の緑化やポイ捨てゼロ作戦、防犯など、美化促進と犯罪抑止のための活動を通して地域の活性化、安全・安心なまちづくりに寄与する。
〈コース〉まちづくりはばたき支援		
4	特定非営利活動法人 ムジカ・フレスカ	区内在住・在勤・在学の方々と音楽文化の向上と地域住民の新しい地域社会作りを考える。
5	NPO法人 千住文化普及会	歴史文化を中心とした街歩きができるレベルの地域ガイドブックを作成する。
6	みらいママ	足立区に特化した育児情報等を集約し、ポータルサイトの作成と育児中に学べる講座を開催する。
7	一般社団法人 まちなか整備・管理機構	区内の増え続ける放置空き家問題・老朽家屋対策の解決と、住みよいまちづくりのための実践的活動を行う。
8	特定非営利活動法人 エコロジー夢企画	河川の状況や河川施設の機能を知り、理解と関心を高め、より良い川活用を考える体験の場を設ける。
9	千住コンテンツ文化研究会	コミックイラスト手法を用いて区内の風景を描き、ワークショップや展示会を開催してあだちの魅力をアピールする。
10	安藤昌益と千住宿の関係を探る会	江戸から明治に至る千住宿の実相を記録している佐藤元菫の日記8冊の翻刻単行本の発刊と、佐藤元菫作品展の開催により、千住文化の継承と人々の生活実態を明らかにする。
〈コース〉まちづくりイベント・整備活動		
11	柳原まちづくり研究会	音楽祭を通じて町の人たちが音楽祭に親しんでもらえるよう音楽祭キャラクター「おーちゃん」のモニュメント像を設置し、まちづくりの楽しさを推進する。
12	千住神社歴史保存会	区内最古の神社のイチョウの保護育成、イチョウ及び防空壕の防護柵の設置、「説明」を記載した表示板を設置する。
〈コース〉街並み空間・自主管理歩道等		
13	千住桜木町会	元宿堰稻荷神社前の自主管理歩道を整備する。
〈コース〉旧一般助成コース		
14	あだち防災プロジェクト	梅島、梅田、島根、足立、中央本町を中心に、災害時を想定し、一人ひとりが助かるためのノウハウを学び、孤立しないで助け合える地域のつながり、ゆるやかなネットワークをつくる。
15	千住ヤッチャイ大学プロジェクト実行委員会	「たこテラス」を中心とした空き家を活用し、さまざまなイベントやワークショップを行い、地域の人々の交流の場、年齢や性別を問わない文化的な経験・機会を持てる場の継続的な運営を行う。
16	伊興ソーシャルファーム実行委員会	気軽に訪れることが出来、人と繋がれる居場所を作り、自分のやりたいことを実現するための食や農、ものづくりに関する学びの機会提供を行う。
17	あだち銭湯文化普及会	平成27年から行ってきた銭湯を拠点とした周辺のまちの変遷調査、研究の集大成として、その成果を冊子にまとめ、銭湯コンクールを行い、地域コミュニティの活性化に努める。

●助成コース・助成限度額・助成回数等 (H28.10.31 から施行)

助成コース名	活動内容	助成対象者	助成限度額	助成回数
学生のまちづくり活動	調査・研究・活動・整備事業	中・高・大学生	10万円以内	1回限り
身近なまちづくり活動		個人又は団体	30万円以内	5回まで
まちづくりはばたき支援			総額500万円以内	5回まで
まちづくりイベント整備活動	調査・研究・活動・整備事業・イベント		300万円以内	1回限り
街並み空間・自主管理歩道等	整備事業	個人又はマンション管理組合等	300万円以内	制限なし

申請書類提出先

三菱UFJ信託銀行株式会社
リテール受託業務部公益信託課
TEL 0120-622-372
〒100-8212 千代田区丸の内1-4-5

申請相談

足立区都市建設部市街地整備室
まちづくり課管理調整係
TEL 03-3880-5915 (直) FAX 03-3880-5605
〒120-8510 足立区中央本町1-17-1 足立区役所 南館4階
メール machi-shien@city.adachi.tokyo.jp

あだちまちづくりトラスト 検索